

2025年8月6日

社会課題「自分ゴト化」プログラム 2025 報告

福島大学地域未来デザインセンターでは、高校生を対象とした教育プログラム“社会課題「自分ゴト化」プログラム 2025”を7月より開始、この度8月3日から5日の行程でフィールドワーク合宿を行いました。

このフィールドワーク合宿は、仙台市近郊の社会課題解決の取り組みを学ぶことを目的とし、様々な地域で活躍する人や団体、街の様子を見て聞いて感じることができる、そしてそれを参加者同士で共有し学びを深めることができるプログラムとして実施いたしました。

<1日目：8月3日>

それぞれの学校や駅でバスに乗りいただいた各校の高校生、教員の皆さんが福島大学に集合。厳しい暑さが続く中、元気に集まってくれた皆さんの様子に安心しながら、いざ宮城県に向け出発です。

最初の訪問先は宮城県亶理郡亶理町の株式会社 WATALIS です。まずは町の施設である「悠里館」1階の郷土資料館を見学し、地域の歴史に思いを馳せました。その後 WATALIS の代表取締役 引地恵様が、社会人になってから自身の故郷である亶理町に戻り、東日本大震災を経て「WATALIS」を立ち上げた経緯などをお話してくださいました。かつて養蚕が盛んだった亶理町には、布を大切にする文化が根付いているとのこと。引地様は、古い着物地で小さな袋“FUGURO”を作り販売することで、もともとある物の価値を高めて再び世に出す「アップサイクル」に取り組んでいるそうです。他にも様々な方法で町に住む老若男女が生き生きと暮らせるまちづくりに尽力されています。講話後には、参加者全員が実際に着物地での小物づくりにチャレンジ。好きな布を選んで手作業を行いながら、互いに交流も深めている様子が見られました。



次に向かったのは仙台市にある「INTILAQ 東北イノベーションセンター」。INTILAQ は新しい会社を起こす「起業家」だけでなく、小中高生、大学生、企業、生産者、どんな人でも、何か新しいことにチャレンジするすべての人々を応援する場所とのことで、グループワークの会場も、おしゃれで開放的な空間です。合宿全体のオリエンテーション、INTILAQ の神尾真太郎様からの講話の後、グループごとに WATALIS の取り組みから得た学びの振り返りを行いました。



< 2日目：8月4日 >

2日目最初のプログラムは、特定非営利活動法人スロコミの代表理事 林久美様の講話から。スロコミとは「スローコミュニケーション」の略とのこと。忙しい時代だからこそ、ゆっくりと時間をかけて出会いや対話の数を重ねること（=slow communications）で、少しずつ「人のつながり」を育てたいとの思いで、介護を中心とした様々な活動を展開しています。講話では、超高齢社会がもたらす社会課題にリアルに触れながら、「関わる地域で寝たきりゼロを目指す」ための取り組みについて説明してくれました。

この講話をふまえ、さっそくスロコミの活動拠点、仙台市河原町「スロコミBASE」と、長町の「マイムテラス」の見学へ。

「スロコミBASE」では「木工ワークショップ&認知症サポーター養成講座」といった市民参加型のイベントを定期的で開催し、楽しみながらコミュニティを育む取り組みが行われています。実際にワークショップで作られた漆喰の壁や椅子、テーブル等を見ながら、関わる人たちの温かみを感じることができました。

「マイムテラス」は長町商店街にある小規模多機能型居宅介護「マイムケア長町」に併設されている施設で、駄菓子屋のある地域交流スペース。この日も、駄菓子屋の店番をしている利用者さんが笑顔で私たちを迎えてくれました。生きがいを取り戻し、必要とされる幸せを感じる場所づくりを実践しているスロコミの活動を実感できるフィールドワークとなりました。



午後は再び「INTILAQ 東北イノベーションセンター」へ。スロコミの取り組みから得た学びを振り返った後、また違った視点からの講話をいただきました。まずは、仙台市市民局 市民協働推進課 連携推進係の高橋弘樹様から「仙台市の概要と若者が活躍するまちづくり」について。東北最大の都市、仙台市の経済や産業、交通、人口等のデータと共に、まちづくり活動の担い手となる若者の発掘・育成の施策を進めていることを具体的に説明いただきました。

次に、ソフトバンク株式会社CSR本部 北海道東北CSR部 参与で公益財団法人子ども未来支援財団 部長の三和真吾様から「ソフトバンクのCSR、子ども未来支援財団の活動」について。CSRとは、corporate social responsibility の略で一般的に「企業の社会的責任」を指していますが、三和様は東日本大震災をきっかけにCSRの仕事に従事するようになったそうです。そのお話の中で、活動におけるリサーチ、アイデア比較（比較検討表の作成）、アクションプランや管理リスト作成等の手法も紹介いただき、大変参考になりました。



<3日目：8月5日>

最終日は、宿泊先からも近い石巻市へ。一般財団法人まちと人と 代表理事 斉藤誠太郎様の講話からスタートです。「まちと人と」は地域で若者が学び、挑戦し、活躍できる機会づくりのため、学校・地域と連携した授業サポートや、石巻地域でのボランティアを通して「地域の良さ」と「自分の好き」を見つけるプログラム等、多彩な活動を展開しています。この日は、実際に活動に参加している地元の高校生や大学生の皆さんも駆けつけ、いっしょに「地域の課題と、地域の可能性」と題した対話ワークを行いました。

その後、4グループに分かれて震災以降にできた活動拠点を見学。気軽に本を借りたり購入したりできる「石巻まちの本棚」、マンガ・アニメ好きな人たちの創作・交流活動の拠点「ヒトコマ」、空き家を改修した小劇場&ミニシアター「シアターキネマティカ」、中高生が中心となって作り運営している「石巻市子どもセンターらいつ」。どこも地元の若者が大人と共に工夫をこらした施設で、そこを「まちと人と」の同世代のスタッフや高校生に案内してもらうことで、プログラム参加高校生も自然に“自分ゴト”と感ずることができたのではないかと思います。



石巻を後にし「INTILAQ 東北イノベーションセンター」で合宿最後の振り返りの時間です。午前中のフィールドワークについて各グループから発表、共有した後、高校ごとに全体の振り返りを行いました。これまで作成してきたポストイットワークを一つずつ回り、他の参加者の受け止めや、自分との共通点、新たな気づき等を話し合います。そして最後に、一人ずつ3日間を振り返りそれぞれの思いを話してもらいました。

仙台市近郊での様々な取り組みについて学ぶ中で、多くの講師が、まずは身近なところや自分が好きなこと、興味のあることに目を向け、そこで自分に何ができるかを考えていくことの大切さをお話してくださいました。どの事例もすばらしく参考になることばかりでしたが、出会った人や街が生き生きと「社会課題」に取り組んでいることが印象的でした。



暑さの中、一生懸命プログラムに向き合ってくれた参加高校生の皆さん、各学校の先生方、そして貴重なお話をしてくださいました講師の方々へ心より御礼申し上げます。

8月23日の第2回集合研修で、今回のフィールドワーク合宿をさらに今後の探究活動へとつなげていきたいと思ひます。

